



# CHAPTER 40

## IPv6 ホスト機能とユニキャスト ルーティングの設定

インターネットプロトコルバージョン 6 (IPv6) は、TCP/IP プロトコルスイートで IP Version 4 (IPv4) を置き換えることを意図したネットワーク層インターネットプロトコルです。この章では、スイッチに IPv6 ホスト機能とユニキャストルーティングを設定する方法について説明します。

IPv4 ユニキャストルーティングの設定方法については、第 39 章「[IP ユニキャストルーティングの設定](#)」を参照してください。IPv6 Multicast Listener Discovery (MLD) スヌーピングについては、第 25 章「[IPv6 MLD スヌーピングの設定](#)」を参照してください。IPv6 アクセスコントロールリスト (ACL) の設定方法については、第 36 章「[IPv6 ACL の設定](#)」を参照してください。

IPv6 ユニキャストルーティングを Catalyst Switch Module 3110 だけで使用するには、スイッチまたはスタック マスターで IP サービス フィーチャ セットが動作している必要があります。このフィーチャ セットには、すべての IP サービス機能と、IPv6 ホストおよびユニキャストルーティングのサポートが含まれています。

Catalyst Switch Module 3012 では、IPv6 ユニキャストルーティングがサポートされていません。

IPv6 を使用するには、デュアル IPv4/IPv6 Switch Database Management (SDM) テンプレートを使用するようにスイッチを設定する必要があります。「[IPv4 と IPv6 の二重プロトコルスタック](#)」(P.40-7) を参照してください。

特に明記しない限り、スイッチという用語は、スタンドアロンスイッチおよびスイッチスタックを指します。



(注)

この章で説明するコマンドの構文および使用方法の詳細については、手順に記載された Cisco IOS のマニュアルを参照してください。

この章の内容は、次のとおりです。

- 「[サポートされている IPv6 ホスト機能とユニキャストルーティング機能](#)」(P.40-2)
- 「[IPv6 の概要](#)」(P.40-3)
- 「[IPv6 の設定](#)」(P.40-13)
- 「[IPv6 の表示](#)」(P.40-31)

## サポートされている IPv6 ホスト機能とユニキャストルーティング機能

表 40-1 に、各スイッチでサポートされている IPv6 機能を示します。

表 40-1 サポートされている IPv6 機能

機能	Catalyst Switch Module 3110	Catalyst Switch Module 3012
128 ビットユニキャストアドレス	Yes	Yes
IPv6 アドレスでの CDP <sup>1</sup> のサポート	Yes	Yes
dCEFv6 <sup>2</sup>	Yes	No
DHCP for IPv6	Yes	No
Default Router Preference	Yes	Yes
IPv6 の DNS	Yes	Yes
IPv4/IPv6 デュアルプロトコルスタック	Yes	Yes
EIGRPv6 <sup>3</sup>	Yes	No
IPv6 の HSRP <sup>4</sup>	Yes	No
IPv6 トランスポートによる HTTP サーバアクセス	Yes	Yes
ICMPv6	Yes	Yes
IPv4 CEF <sup>5</sup>	Yes	Yes
IPv6 ステートレス自動設定および重複アドレス検出	Yes	Yes
ネイバー探索	Yes	Yes
IPv6 ユニキャストのパス MTU <sup>6</sup> 検出	Yes	No
ping、Traceroute、Telnet、および Trivial File Transfer Protocol (TFTP)	Yes	Yes
OSPF <sup>7</sup>	Yes	No
RIP <sup>8</sup>	Yes	No
SNMP over IPv6	Yes	Yes
スタティックルート	Yes	Yes
IPv6 での Syslog	Yes	Yes
IPv6 トランスポートでの SSH <sup>9</sup>	Yes	Yes

1. CDP = Cisco Discovery Protocol (Cisco Discovery Protocol)
2. dCEFv6 = distributed Cisco Express Forwarding Version 6
3. EIGRPv6 = Enhanced Gateway Routing Protocol Version 6
4. HSRP = Hot Standby Router Protocol (ホットスタンバイルータプロトコル)
5. CEF = Cisco Express Forwarding (シスコ エクスプレス フォワーディング)
6. MTU = Maximum Transmission Unit (最大伝送単位)
7. OSPF = Open Shortest Path First
8. RIP = Routing Information Protocol
9. SSH = Secure Shell (セキュア シェル)

## IPv6 の概要

IPv4 ユーザは IPv6 に移行することができ、エンドツーエンドのセキュリティ、Quality of Service (QoS)、およびグローバルに一意的なアドレスのようなサービスを利用できます。IPv6 アドレス スペースによって、プライベートアドレスの必要性が低下し、ネットワーク エッジの境界ルータで Network Address Translation (NAT; ネットワーク アドレス変換) 処理を行う必要性も低下します。

シスコの IPv6 の実装方法については、次の URL を参照してください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6553/products\\_ios\\_technology\\_home.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6553/products_ios_technology_home.html)

IPv6 およびこの章のその他の機能については、

- 次の URL にある『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』を参照してください。  
[http://www.cisco.com/en/US/docs/ios/12\\_2t/ipv6/ipv6\\_vgf.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/ios/12_2t/ipv6/ipv6_vgf.html)
- Cisco IOS ソフトウェア マニュアルを検索するには、検索フィールドを使用します。たとえば、スタティック ルートに関する情報を取得する場合は、検索フィールドに「*Implementing Static Routes for IPv6*」と入力してスタティック ルートに関する資料を取得します。  
[http://www.cisco.com/en/US/docs/ios/ipv6/configuration/guide/ip6-stat\\_routes\\_ps6441\\_TSD\\_Products\\_Configuration\\_Guide\\_Chapter.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/ios/ipv6/configuration/guide/ip6-stat_routes_ps6441_TSD_Products_Configuration_Guide_Chapter.html)

ここでは、スイッチへの IPv6 の実装について説明します。内容は次のとおりです。

- 「IPv6 アドレス」(P.40-3)
- 「サポートされている IPv6 ホスト機能とユニキャストルーティング機能」(P.40-4)
- 「サポートされていない IPv6 ホスト機能とユニキャストルーティング機能」(P.40-10)
- 「制限事項」(P.40-11)
- 「IPv6 とスイッチ スタック」(P.40-11)

## IPv6 アドレス

スイッチがサポートするのは、IPv6 ユニキャストアドレスだけです。スイッチはサイトローカルなユニキャストアドレス、エニキャストアドレス、またはマルチキャストアドレスをサポートしません。

IPv6 の 128 ビットアドレスは、コロンで区切られた一連の 8 つの 16 進フィールド (n:n:n:n:n:n:n:n の形式) で表されます。次に、IPv6 アドレスの例を示します。

```
2031:0000:130F:0000:0000:09C0:080F:130B
```

実装を容易にするために、各フィールドの先行ゼロは省略可能です。上記アドレスは、先行ゼロを省略した次のアドレスと同じです。

```
2031:0:130F:0:0:9C0:80F:130B
```

2 つのコロン (::) を使用して、ゼロが連続する 16 進フィールドを表すことができます。ただし、この短縮形を使用できるのは、各アドレス内で 1 回のみです。

```
2031:0:130F::09C0:080F:130B
```

IPv6 アドレス フォーマット、アドレス タイプ、および IPv6 パケット ヘッダーの詳細については、Cisco.com の『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』の「Implementing IPv6 Addressing and Basic Connectivity」の章を参照してください。

「Information About Implementing Basic Connectivity for IPv6」の、次の項の内容がスイッチに適用されます。

- 「IPv6 Address Formats」
- IPv6 アドレス タイプ：ユニキャスト
- 「IPv6 Address Output Display」
- 「Simplified IPv6 Packet Header」

## サポートされている IPv6 ホスト機能とユニキャストルーティング機能

ここでは、スイッチでサポートされている IPv6 プロトコル機能について説明します。

- 「128 ビット幅のユニキャストアドレス」(P.40-5)
- 「IPv6 の DNS」(P.40-5)
- 「IPv6 ユニキャストのパス MTU ディスカバリ」(P.40-5) (Catalyst Switch Module 3110 だけ)
- 「ICMPv6」(P.40-5)
- 「ネイバー探索」(P.40-6)
- 「DRP」(P.40-6)
- 「IPv6 ステートレス自動設定および重複アドレス検出」(P.40-6)
- 「IPv6 アプリケーション」(P.40-6)
- 「IPv4 と IPv6 の二重プロトコルスタック」(P.40-7)
- 「DHCP for IPv6 アドレスの割り当て」(P.40-7) (Catalyst Switch Module 3110 だけ)
- 「IPv6 のスタティックルート」(P.40-8)
- 「RIP for IPv6」(P.40-8) (Catalyst Switch Module 3110 だけ)
- 「OSPF for IPv6」(P.40-8) (Catalyst Switch Module 3110 だけ)
- 「EIGRP IPv6」(P.40-9) (Catalyst Switch Module 3110 だけ)
- 「HSRP for IPv6」(P.40-9) (Catalyst Switch Module 3110 だけ)
- 「IPv6 上の SNMP および Syslog」(P.40-9)
- 「IPv6 による HTTP (S)」(P.40-10)

スイッチでは、拡張アドレス機能、ヘッダーフォーマットの単純化、拡張子およびオプションのサポートの改善、および拡張ヘッダーのハードウェア解析などがサポートされています。また、ホップ単位の拡張ヘッダーパケットもサポートし、これらをソフトウェアでルーティングまたはブリッジングします。

Catalyst Switch Module 3110 では、スタティックルート用の 802.1Q トランクポート、IPv6 用の Routing Information Protocol (RIP)、および Open Shortest Path First (OSPF) バージョン 3 プロトコルの IPv6 ルーティング機能が提供されています。最大 16 の等コストのルートをサポートし、IPv4 および IPv6 フレームを同時にラインレートで転送できます。

## 128 ビット幅のユニキャスト アドレス

スイッチは集約可能なグローバルユニキャストアドレスおよびリンクに対してローカルなユニキャストアドレスをサポートします。サイトに対してローカルなユニキャストアドレスはサポートされていません。

- 集約可能なグローバルユニキャストアドレスは、集約可能グローバルユニキャストプレフィックスの付いた IPv6 アドレスです。このアドレス構造を使用すると、ルーティングプレフィックスを厳格に集約することができ、グローバルルーティングテーブル内のルーティングテーブルエントリ数が制限されます。これらのアドレスは、組織を経由して最終的にインターネットサービスプロバイダーに至る集約リンク上で使用されます。

これらのアドレスはグローバルルーティングプレフィックス、サブネット ID、およびインターフェイス ID によって定義されます。現在のグローバルユニキャストアドレス割り当てには、バイナリ値 001 (2000::/3) で開始するアドレス範囲が使用されます。プレフィックスが 2000::/3 (001) ~ E000::/3 (111) のアドレスには、Extended Unique Identifier (EUI) 64 フォーマットの 64 ビットインターフェイス ID を設定する必要があります。

- リンクに対してローカルなユニキャストアドレスをすべてのインターフェイスに自動的に設定するには、修飾 EUI フォーマット内で、リンクに対してローカルなプレフィックス FE80::/10 (1111 1110 10) およびインターフェイス ID を使用します。リンクローカルアドレスは、ネイバー探索プロトコルとステートレス自動設定プロセスで使用されます。ローカルリンク上のノードは、リンクに対してローカルなアドレスを使用します。通信する場合に、グローバルに一意的なアドレスは不要です。IPv6 ルータは、リンクに対してローカルな送信元または宛先アドレスを持つパケットをその他のリンクに転送しません。

詳細については、Cisco.com の『Cisco IOS IPv6 Configuration Library』の「Implementing IPv6 Addressing and Basic Connectivity」の章にある IPv6 ユニキャストアドレスの項を参照してください。

## IPv6 の DNS

IPv6 は、Domain Name System (DNS; ドメインネームシステム) のレコードタイプを、DNS 名前/アドレスおよびアドレス/名前の検索プロセスでサポートします。DNS AAAA リソースレコードタイプは IPv6 アドレスをサポートし、IPv4 の A アドレスレコードと同等です。スイッチは IPv4 および IPv6 の DNS 解決をサポートします。

## IPv6 ユニキャストのパス MTU ディスカバリ

Catalyst Switch Module 3110 は、IPv6 ノードに対するシステム MTU のアダプタイズと、Path MTU Discovery をサポートします。パス MTU ディスカバリを使用すると、ホストは指定されたデータパスを通るすべてのリンクの MTU サイズを動的に検出して、サイズに合わせて調整できます。IPv6 では、パスを通るリンクの MTU サイズが小さくてパケットサイズに対応できない場合、パケットの送信元がフラグメンテーションを処理します。スイッチは、マルチキャストパケットのパス MTU ディスカバリをサポートしません。

## ICMPv6

IPv6 のインターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) は、ICMP 宛先到達不能メッセージなどのエラーメッセージを生成して、処理中に発生したエラーや、その他の診断機能を報告します。IPv6 では、ネイバー探索プロトコルおよびパス MTU ディスカバリに ICMP パケットも使用されます。

## ネイバー探索

スイッチは、IPv6 対応の NDP、ICMPv6 の最上部で稼働するプロトコル、および NDP をサポートしない IPv6 ステーション対応のスタティック ネイバー エントリをサポートします。IPv6 NDP は ICMP メッセージおよび送信請求ノード マルチキャスト アドレスを使用して、同じネットワーク（ローカルリンク）上のネイバーのリンク層アドレスを判別し、ネイバーに到達できるかどうかを確認し、近接ルータを追跡します。

スイッチは、マスク長が 64 未満のルートに対して ICMPv6 リダイレクトをサポートしています。マスク長が 64 ビットを超えるホスト ルートまたは集約ルートでは、ICMP リダイレクトがサポートされません。

ネイバー探索スロットリングにより、IPv6 パケットをルーティングするためにネクスト ホップ転送情報を取得するプロセス中に、スイッチ CPU に不必要な負荷がかかりません。IPv6 パケットのネクストホップがスイッチによってアクティブに解決しようとしている同じネイバーである場合は、そのようなパケットが追加されると、スイッチはそのパケットをドロップします。このドロップにより、CPU に余分な負荷がかからないようになります。

## DRP

スイッチは、ルータのアドバタイズメント メッセージの拡張機能である、IPv6 Default Router Preference (DRP) をサポートします。DRP では、特にホストがマルチホーム構成されていて、ルータが異なるリンク上にある場合に、ホストが適切なルータを選択する機能が向上しました。スイッチは、Route Information Option (RFC 4191) をサポートしません。

IPv6 ホストは、オフリンク宛先へのトラフィック用にルータを選択する、デフォルト ルータ リストを維持します。次に、宛先用に選択されたルータは、宛先キャッシュに格納されます。IPv6 NDP では、到達可能であるルータまたは到達可能性の高いルータが、到達可能性が不明または低いルータよりも優先されます。NDP は、到達可能または到達可能な可能性があるルータとして、常に同じルータを選択するか、またはルータ リストから繰り返し使用できます。DRP を使用することにより、IPv6 ホストが、両方もが到達可能または到達可能な可能性がある 2 台のルータを差別化するように設定できます。

IPv6 の DRP の詳細については、Cisco.com にある『Cisco IOS IPv6 Configuration Library』の「Implementing IPv6 Addresses and Basic Connectivity」の章を参照してください。

## IPv6 ステートレス自動設定および重複アドレス検出

スイッチではステートレス自動設定が使用されているため、ホストやモバイル IP アドレスの管理のような、リンク、サブネット、およびサイト アドレス指定の変更を管理することができます。ホストはリンクに対してローカルな独自アドレスを自動的に設定します。起動元ノードはルータに送信請求を送信して、インターフェイス設定をアドバタイズするようルータに要求します。

自動設定および重複アドレス検出の詳細については、Cisco.com の『Cisco IOS IPv6 Configuration Library』の「Implementing IPv6 Addressing and Basic Connectivity」の章を参照してください。

## IPv6 アプリケーション

スイッチは、次のアプリケーションについて IPv6 をサポートします。

- ping、Traceroute、Telnet、および Trivial File Transfer Protocol (TFTP)
- IPv6 トランスポートによる Secure Shell (SSH; セキュア シェル)
- IPv6 トランスポートによる HTTP サーバ アクセス
- IPv4 トランスポートによる AAAA の DNS レゾルバ

- IPv6 アドレスの Cisco Discovery Protocol (CDP) サポート

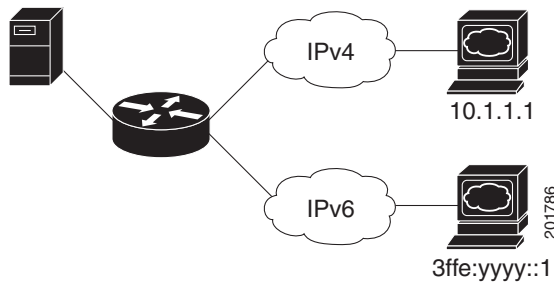
これらのアプリケーションの詳細については、Cisco.com の『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』の「Managing Cisco IOS Applications over IPv6」の章および「Implementing IPv6 Addressing and Basic Connectivity」の章を参照してください。

## IPv4 と IPv6 の二重プロトコルスタック

IPv4 および IPv6 プロトコルの両方に Ternary Content Addressable Memory (TCAM; 3 値連想メモリ) の使用を割り当てるには、デュアル IPv4/IPv6 テンプレートを使用する必要があります。

図 40-1 に、IP パケットおよび宛先アドレスに基づいて、同じインターフェイスを介して IPv4 および IPv6 トラフィックを転送するルータを示します。

図 40-1 インターフェイス上での IPv4/IPv6 のデュアル サポート



IPv6 ルーティングおよびホスト機能を有効にするには、デュアル IPv4/IPv6 Switch Database Management (SDM) テンプレートを使用します。デュアル IPv4/IPv6 SDM テンプレートについての詳細は、第 8 章「SDM テンプレートの設定」を参照してください。

デュアル IPv4 および IPv6 テンプレートを使用すると、デュアルスタック環境でスイッチを使用できるようになります。

- デュアル IPv4/IPv6 テンプレートを最初に選択しないで IPv6 を設定しようとする、警告メッセージが表示されます。
- IPv4 だけの環境では、Catalyst Switch Module 3110 は、IPv4 パケットをルーティングし、IPv4 QoS と ACL をハードウェアで適用します。Catalyst Switch Module 3012 は、IPv4 QoS および ACL をハードウェアで適用します。IPv6 パケットはサポートされません。
- デュアル IPv4/IPv6 環境では、Catalyst Switch Module 3110 は、IPv4 パケットと IPv6 パケットの両方をルーティングし、IPv4 QoS をハードウェアで適用します。Catalyst Switch Module 3012 は、IPv4 QoS と ACL をハードウェアで適用します。
- Catalyst Switch Module 3110 は、IPv6 QoS をサポートしていません。Catalyst Switch Module 3012 は、IPv6 QoS と ACL をサポートしていません。
- デュアルスタック テンプレートを使用すると各リソースの TCAM 容量が少なくなるので、IPv6 を使用しない場合はデュアルスタック テンプレートを使用しないでください。

IPv4 および IPv6 プロトコルスタックについての詳細は、Cisco.com の『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』の「Implementing IPv6 Addressing and Basic Connectivity」の章を参照してください。

## DHCP for IPv6 アドレスの割り当て

このセクションは、Catalyst Switch Module 3110 だけに適用されます。

DHCPv6 により、DHCP サーバは IPv6 ネットワーク アドレスなどの設定パラメータを IPv6 クライアントに渡すことができます。アドレス割り当て機能により、ホストが接続されているネットワークに基づいた適切なプレフィックスで重複のないアドレス割り当てが行われます。アドレスは、1 つまたは複数のプレフィックス プールから割り当てることができます。デフォルトのドメインおよび DNS ネームサーバアドレスなど、その他のオプションは、クライアントに戻すことができます。アドレス プールは、特定のインターフェイス、複数のインターフェイス上で使用する場合に割り当てられます。または、サーバが自動的に適切なプールを検出できます。

このマニュアルでは、DHCPv6 のアドレス割り当てについてだけ説明します。DHCPv6 クライアント、サーバ、またはリレー エージェント機能の設定の詳細については、Cisco.com の『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』の「Implementing DHCP for IPv6」の章を参照してください。

## IPv6 のスタティック ルート

スタティック ルートは手動で設定され、2 つのネットワーキング デバイス間のルートを示的に定義します。スタティック ルートが有効なのは、外部ネットワークへのパスが 1 つしかない小規模ネットワークの場合、または大規模ネットワークで特定のトラフィック タイプにセキュリティを設定する場合です。

スタティック ルートの詳細については、Cisco.com の『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』の「Implementing Static Routes for IPv6」の章を参照してください。

## RIP for IPv6

このセクションは、Catalyst Switch Module 3110 だけに適用されます。

IPv6 の Routing Information Protocol (RIP) は、ルーティング メトリックとしてホップ カウントを使用するディスタンスベクトル プロトコルです。IPv6 アドレスおよびプレフィックスのサポート、すべての RIP ルータを含むマルチキャスト グループ アドレス FF02::9 を RIP アップデート メッセージの宛先アドレスとして使用する機能などがあります。

IPv6 の RIP の詳細については、Cisco.com の『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』の「Implementing RIP for IPv6」の章を参照してください。

## OSPF for IPv6

このセクションは、Catalyst Switch Module 3110 だけに適用されます。

スイッチは、IP のリンクステート プロトコルの 1 つである、IPv6 の Open Shortest Path First (OSPF) をサポートしています。詳細については、Cisco.com の『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』の「Implementing OSPF for IPv6」の章を参照してください。

Cisco IOS Release 12.2(58)SE 以降のリリースでは、IP サービス フィーチャ セットを実行するスイッチは OSPFv3 のグレースフル リスタート機能をサポートします。この機能により、OSPFv3 ルーティング プロトコル情報が復元されている間も、既知のルート上でノンストップのデータの転送が可能になります。スイッチは、再起動モード (グレースフル リスタート対応スイッチなど) か、ヘルパーモード (グレースフル リスタート認識スイッチなど) のいずれかで、グレースフル リスタートに参加できます。

グレースフル リスタート機能を実行するには、スイッチがハイ アベイラビリティ (HA) ステートフル スイッチオーバー (SSO) モード (つまり、デュアル RP) になっている必要があります。グレースフル リスタートが可能なスイッチは、これらの障害が発生すると、グレースフル リスタートの機能を実行します。

- ルート プロセッサ (RP) 障害が発生し、スタンバイ RP へのスイッチオーバーが行われた場合
- スタンバイ RP への計画的な RP スイッチオーバーが行われた場合



グレースフル リスタート機能では、隣接スイッチがグレースフル リスタート認識である必要があります。

詳細については、Cisco.com の『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』の「Implementing OSPF for IPv6」の章を参照してください。

## EIGRP IPv6

このセクションは、Catalyst Switch Module 3110 だけに適用されます。

スイッチは、IPv6 の Enhanced Interior Gateway Routing Protocol (EIGRP) をサポートしています。IPv6 の EIGRP は稼働するインターフェイス上で設定されるため、グローバルな IPv6 アドレスは不要です。

EIGRP IPv6 インスタンスでは、実行する前に暗示的または明示的なルータ ID が必要です。暗示的なルータ ID はローカルの IPv4 アドレスを基にして作成されるため、すべての IPv4 ノードには常に使用可能なルータ ID があります。ただし、EIGRP IPv6 は IPv6 ノードだけが含まれるネットワークで稼働するため、使用可能な IPv4 ルータ ID がない場合があります。

IPv6 の EIGRP の詳細については、Cisco.com の『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』の「Implementing EIGRP for IPv6」の章を参照してください。

## HSRP for IPv6

このセクションは、Catalyst Switch Module 3110 だけに適用されます。

スイッチは、IPv6 のホットスタンバイ ルータ プロトコル (HSRP) をサポートしています。HSRP は、任意の単一のルータのオペラビリティに依存せず、ルーティング IPv6 トラフィックにルーティング冗長性を提供します。IPv6 ホストは、IPv6 ネイバー探索ルータのアドバタイズメント メッセージによって使用可能なルータを学習します。これらのメッセージは定期的にマルチキャストされるか、ホストにより送信請求されます。

HSRP IPv6 グループには、HSRP グループ番号に基づく仮想 MAC アドレス、およびデフォルトで HSRP 仮想 MAC アドレスに基づく HSRP の仮想 IPv6 リンクローカル アドレスがあります。HSRP グループがアクティブな場合、定期的なメッセージが HSRP 仮想 IPv6 リンクローカル アドレスに送信されます。グループがアクティブ ステートでなくなった場合、これらのメッセージは最後のメッセージが送信されたあとで停止します。

HSRP for IPv6 の詳細については、Cisco.com の『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』の「Configuring First Hop Redundancy Protocols in IPv6」の章を参照してください。

## IPv6 上の SNMP および Syslog

IPv4 と IPv6 の両方をサポートするには、IPv6 のネットワーク管理で IPv4 および IPv6 のトランスポートが必要になります。IPv6 による Syslog は、このトランスポートのアドレス データ タイプをサポートします。

IPv6 による SNMP および Syslog は、次の機能を提供します。

- IPv4 と IPv6 両方のサポート
- SNMP に対する IPv6 トランスポート、および SNMP 変更による IPv6 ホストのトラップのサポート
- IPv6 アドレス指定をサポートするための SNMP および Syslog に関連する MIB
- IPv6 ホストをトラップ レシーバとして設定

IPv6 に関連するサポートでは、SNMP は既存の IP トランスポート マッピングを変更して、IPv4 と IPv6 を同時にサポートします。次の SNMP 動作は、IPv6 トランスポート管理をサポートします。

- デフォルト設定のユーザ データグラム プロトコル (UDP) SNMP ソケットを開く
- *SR\_IPV6\_TRANSPORT* と呼ばれる新しいトランスポート メカニズムを提供
- IPv6 トランスポートによる SNMP 通知の送信
- IPv6 トランスポートの SNMP 名のアクセス リストのサポート
- IPv6 トランスポートを使用した SNMP プロキシ転送のサポート
- SNMP マネージャ機能と IPv6 トランスポートの連動確認

設定手順を含む、IPv6 に関連する SNMP については、Cisco.com の『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』の「Managing Cisco IOS Applications over IPv6」の章を参照してください。

IPv6 上の Syslog (設定手順を含む) については、Cisco.com の『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』の「Implementing IPv6 Addressing and Basic Connectivity」の章を参照してください。

## IPv6 による HTTP (S)

HTTP クライアントは要求を IPv4 HTTP サーバと IPv6 HTTP サーバの両方に送信し、これらのサーバは IPv4 HTTP クライアントと IPv6 HTTP クライアントの両方からの要求に応答します。IPv6 アドレスを含む URL は、16 ビット値をコロンで区切った 16 進数で指定する必要があります。

受信ソケット コールは、IPv4 アドレス ファミリまたは IPv6 アドレス ファミリを選択します。受信ソケットは、IPv4 ソケットまたは IPv6 ソケットのいずれかです。リスニング ソケットは、接続を示す IPv4 と IPv6 の両方の信号を待ち受け続けます。IPv6 リスニング ソケットは、IPv6 ワイルドカードアドレスにバインドされています。

基本 TCP/IP スタックは、デュアル スタック環境をサポートします。HTTP には、TCP/IP スタック、およびネットワーク層相互作用を処理するためのソケットが必要です。

HTTP 接続が確立するためには、基本ネットワーク接続 (**ping**) がクライアントとサーバ ホストとの間に存在する必要があります。

詳細については、Cisco.com の『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』の「Managing Cisco IOS Applications over IPv6」の章を参照してください。

## サポートされていない IPv6 ホスト機能とユニキャストルーティング機能

Catalyst Switch Module 3110 は、次の IPv6 機能をサポートしていません。

- IPv6 ポリシーベース ルーティング
- IPv6 パーチャル プライベート ネットワーク (VPN) Routing And Forwarding (VRF; VPN ルーティングおよび転送) テーブルのサポート
- Multiprotocol ボーダー ゲートウェイ プロトコル (BGP)、および Intermediate System-to-Intermediate System (IS-IS) ルーティングの IPv6 ルーティング プロトコルのサポート
- サイトローカルなアドレス宛ての IPv6 パケット
- IPv4/IPv6 や IPv6/IPv4 などのトンネリング プロトコル
- IPv4/IPv6 または IPv6/IPv4 トンネリング プロトコルをサポートするトンネルエンドポイントとしてのスイッチ
- IPv6 ユニキャスト Reverse-Path Forwarding
- IPv6 の汎用プレフィックス

Catalyst Switch Module 3012 は、次の IPv6 ホスト機能をサポートしていません。

- IPv6 ユニキャスト ルーティング
- IPv6 マルチキャスト ルーティング
- IPv6 QoS
- ほとんどの IPv6 ACL

## 制限事項

このセクションは、Catalyst Switch Module 3110 だけに適用されます。

スイッチでは IPv6 はハードウェアに実装されるため、ハードウェア メモリ内の IPv6 圧縮アドレスによる制限がいくつか発生します。これらのハードウェア制限により、機能の一部が失われて、制限されます。

機能の制限は次のとおりです。

- ICMPv6 リダイレクト機能は、IPv6 ホスト ルート（特定のホストに到達するのに使用されるルート）、またはマスク長が 64 ビットを超える IPv6 ルートではサポートされません。スイッチは、ホスト ルートまたはマスク長が 64 ビットを超えるルートを介して到達可能な特定の宛先へのより最適なファーストホップ ルータに、ホストをリダイレクトできません。
- 等コスト ルートと非等コスト ルートを使用したロード バランシングは、IPv6 ホスト ルートまたはマスクが 64 ビットを超える IPv6 ルートではサポートされていません。
- スイッチは、SNAP カプセル化 IPv6 パケットを転送できません。



(注) IPv4 SNAP カプセル化パケットにも同様の制限がありますが、パケットはスイッチでドロップされ、転送されません。

- スイッチは、IPv6/IPv4 および IPv4/IPv6 パケットをハードウェアでルーティングしますが、スイッチを IPv6/IPv4 または IPv4/IPv6 トンネル エンドポイントにはできません。
- ホップバイホップの拡張ヘッダーを持つブリッジング済みの IPv6 パケットは、ソフトウェアで転送されます。IPv4 の場合、これらのパケットはソフトウェアでルーティングされ、ハードウェアでブリッジングされます。
- ソフトウェア コンフィギュレーション ガイドで定義された標準の SPAN および RSPAN 制限のほかに、次のような IPv6 パケット固有の制限事項があります。
  - RSPAN IPv6 ルーテッドパケットを送信した場合、SPAN 出力パケット内の送信元 MAC アドレスが不正である場合があります。
  - RSPAN IPv6 ルーテッドパケットを送信した場合、宛先 MAC アドレスが不正である場合があります。標準トラフィックは影響を受けません。
- スイッチはソースルート IPv6 パケットに関する QoS 分類または PBR をハードウェアで適用できません。
- スイッチはマルチキャストパケットに対して ICMPv6 *Packet Too Big* メッセージを生成できません。

## IPv6 とスイッチ スタック

このセクションは、Catalyst Switch Module 3110 だけに適用されます。

スイッチにより、スタック全体で IPv6 転送がサポートされ、スタック マスターで IPv6 ホスト機能がサポートされます。スタック マスターは IPv6 ユニキャストルーティングプロトコルを実行してルーティングテーブルを計算します。Distributed CEF (dCEF; 分散 CEF) を使用して、スタック マスターはルーティングテーブルをスタック メンバー スイッチにダウンロードします。スタック メンバー スイッチはテーブルを受信して、転送用にハードウェア IPv6 ルートを作成します。スタック マスターも、すべての IPv6 アプリケーションを実行します。



(注)

スタックで IPv6 パケットをルーティングするために、スタック内のすべてのスイッチは、IP サービス フィーチャ セットを実行している必要があります。

新しいスイッチがスタック マスターになる場合、新しいマスターは IPv6 ルーティングテーブルを再計算してこれをメンバー スイッチに配布します。新しいスタック マスターが選択中およびリセットの間には、スイッチ スタックによる IPv6 パケットの転送は行われません。スタック MAC アドレスが変更され、これによって IPv6 アドレスが変更されます。ipv6 address ipv6-prefix/prefix length eui-64 インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、Extended Unique Identifier (EUI; 拡張固有識別子) でスタック IPv6 アドレスを指定する場合、アドレスは、インターフェイス MAC アドレスに基づきます。「IPv6 アドレッシングの設定と IPv6 ホスト機能またはルーティングのイネーブル化」(P.40-14) を参照してください。

スタック上で永続的な MAC アドレスを設定し、スタック マスターが変更された場合、スタック MAC アドレスは、約 4 分間、変更されません。詳細については、第 7 章「スイッチ スタックの管理」の「固定 MAC アドレスのイネーブル化」(P.7-23) を参照してください。

IPv6 スタック マスターおよびメンバーの機能は次のとおりです。

- スタック マスター
  - IPv6 ルーティングプロトコルの実行
  - ルーティング テーブルの生成
  - dCEFv6 を使用するスタック メンバーへの CEFv6 ルーティング テーブルの配布
  - IPv6 ホスト機能および IPv6 アプリケーションの実行

- スタック メンバー (IP サービス フィーチャ セットを実行している必要があります)
  - スタック マスターからの CEFv6 ルーティング テーブルの受信
  - ハードウェアへのルートのプログラミング



(注) IPv6 パケットに例外 (IPv6Options) がなく、スタック内のスイッチでハードウェア リソースが不足していない場合、IPv6 パケットがスタック全体にわたってハードウェアでルーティングされます。

- マスターの再選択での CEFv6 テーブルのフラッシュ

IPv4 ユニキャスト ルーティングを使用した場合、スタック マスターがダウンしていることが検出され、いずれかのスタック メンバーが新しいスタック マスターとして選出されると、一時的な中断を除き、ハードウェアは、アクティブなプロトコルなしでパケットの転送を続行します。IPv6 を使用した場合、スイッチはパケットの転送を続行しません。新しいスタック マスターの選出時、スタックは、すべてのルートを復旧してトラフィックの転送を再開するまで、最大 60 秒かかる可能性があります。

IPv6 ホスト機能はスタック マスターでサポートされており、すべての IPv6 アプリケーションはスタック マスターで動作します。

## IPv6 の設定

ここでは、次の IPv6 転送の設定情報について説明します。

- 「IPv6 のデフォルト設定」 (P.40-13)
- 「IPv6 アドレッシングの設定と IPv6 ホスト機能またはルーティングのイネーブル化」 (P.40-14)
- 「DRP の設定」 (P.40-17)
- 「IPv4 および IPv6 プロトコル スタックの設定」 (P.40-17) (Catalyst Switch Module 3110 だけ)
- 「DHCP for IPv6 アドレス割り当ての設定」 (P.40-19) (Catalyst Switch Module 3110 だけ)
- 「IPv6 ICMP レート制限の設定」 (P.40-22)
- 「IPv6 の CEF および dCEF の設定」 (P.40-23) (Catalyst Switch Module 3110 だけ)
- 「IPv6 のスタティック ルートの設定」 (P.40-23)
- 「IPv6 RIP の設定」 (P.40-25) (Catalyst Switch Module 3110 だけ)
- 「IPv6 OSPF の設定」 (P.40-26) (Catalyst Switch Module 3110 だけ)
- 「IPv6 の EIGRP の設定」 (P.40-28) (Catalyst Switch Module 3110 だけ)
- 「IPv6 の HSRP の設定」 (P.40-28) (Catalyst Switch Module 3110 だけ)

## IPv6 のデフォルト設定

表 40-2 に IPv6 のデフォルト設定を示します。

表 40-2 IPv6 のデフォルト設定

機能	デフォルト設定
SDM テンプレート	デフォルト デスクトップ
IPv6 ルーティング <sup>1</sup>	すべてのインターフェイスでグローバルにディセーブル

表 40-2 IPv6 のデフォルト設定 (続き)

機能	デフォルト設定
CEFv6 または dCEFv6 <sup>1</sup>	ディセーブル (IPv4 CEF および dCEF はデフォルトでイネーブル) (注) IPv6 ルーティングがイネーブルの場合、CEFv6 および dCEFv6 は自動的にイネーブルになります。
IPv6 アドレス	未設定。

1. この機能は、Catalyst Switch Module 3110 だけでサポートされています。

## IPv6 アドレッシングの設定と IPv6 ホスト機能またはルーティングのイネーブル化

ここでは、IPv6 アドレスを各レイヤ 3 インターフェイスに割り当てて、IPv6 トラフィックをスイッチ上でグローバル転送する方法を説明します。

スイッチ上の IPv6 を設定する前に、次の注意事項に従ってください。

- 必ずデュアル IPv4/IPv6 SDM テンプレートを選択してください。
- スイッチでは、この章で説明されたすべての機能がサポートされるわけではありません。「サポートされていない IPv6 ホスト機能とユニキャストルーティング機能」(P.40-10) を参照してください。
- ipv6 address** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドでは、16 ビット値を使用したコロン区切りの 16 進形式で指定したアドレスで指定した *ipv6-address* 変数および *ipv6-prefix* 変数を入力する必要があります。*prefix-length* 変数 (スラッシュ (/) で始まる) は、プレフィックス (アドレスのネットワーク部分) を構成するアドレスの上位連続ビット数を示す 10 進値です。

インターフェイス上の IPv6 トラフィックを転送するには、そのインターフェイス上でグローバル IPv6 アドレスを設定する必要があります。インターフェイス上で IPv6 アドレスを設定すると、リンクに対してローカルなアドレスの設定、およびそのインターフェイスに対する IPv6 のアクティブ化が自動的に行われます。設定されたインターフェイスは、次に示す、該当リンクの必須マルチキャストグループに自動的に参加します。

- インターフェイスに割り当てられた各ユニキャストアドレスの送信要求ノードマルチキャストグループ FF02:0:0:0:1:ff00::/104 (このアドレスはネイバー探索プロセスで使用される)
- すべてのノードを含む、ルータリンクに対してローカルなマルチキャストグループ FF02::1
- すべてのルータを含む、リンクに対してローカルなマルチキャストグループ FF02::2

IPv6 ホスト機能またはルーティングの設定の詳細については、Cisco.com にある『Cisco IOS IPv6 Configuration Library』の「Implementing Addressing and Basic Connectivity for IPv6」の章を参照してください。

IPv6 アドレスをレイヤ 3 インターフェイスに割り当てて IPv6 転送をイネーブルにするには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>sdm prefer dual-ipv4-and-ipv6 {default   routing   vlan}</code>	IPv4 および IPv6 をサポートする SDM テンプレートを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>default</b> : スイッチをデフォルト テンプレートに設定して、システム リソースを均衡化します。</li> <li><b>routing</b> : IPv4 PBR などの IPv4 および IPv6 ルーティングをサポートするためにスイッチをルーティング テンプレートに設定します。</li> <li><b>vlan</b> : ハードウェアでのルーティングをサポートしないスイッチでの VLAN 設定を最適化します。</li> </ul>
ステップ 3	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	<code>reload</code>	OS (オペレーティング システム) をリロードします。
ステップ 5	<code>configure terminal</code>	スイッチのリロード後、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	<code>interface interface-id</code>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、設定するレイヤ 3 インターフェイスを指定します。インターフェイスは物理インターフェイス、Switch Virtual Interface (SVI)、スイッチ仮想インターフェイス)、またはレイヤ 3 EtherChannel に設定できます。
ステップ 7	<code>no switchport</code>	この手順は、Catalyst Switch Module 3110 だけに適用されます。  レイヤ 2 コンフィギュレーション モードからインターフェイスを削除します (物理インターフェイスの場合)。
ステップ 8	<code>ipv6 address ipv6-prefix/prefix length eui-64</code>  または <code>ipv6 address ipv6-address/prefix length</code>  または <code>ipv6 address ipv6-address link-local</code>  または <code>ipv6 enable</code>	IPv6 アドレスの下位 64 ビットの Extended Unique Identifier (EUI; 拡張固有識別子) を使用して、グローバル IPv6 アドレスを指定します。ネットワーク プレフィックスだけを指定します。最終の 64 ビットは、スイッチの MAC アドレスから自動的に計算されます。これにより、インターフェイス上で IPv6 処理がイネーブルになります。  インターフェイスの IPv6 アドレスを手動で設定します。  インターフェイスで IPv6 がイネーブルな場合に自動設定される、リンクに対してローカルなアドレスでなく、インターフェイス上の特定の、リンクに対してローカルなアドレスを使用するように指定します。このコマンドにより、インターフェイス上で IPv6 処理がイネーブルになります。  インターフェイスに IPv6 リンクに対してローカルなアドレスを自動設定し、インターフェイスでの IPv6 処理をイネーブルにします。リンクに対してローカルなアドレスを使用できるのは、同じリンク上のノードと通信する場合だけです。
ステップ 9	<code>exit</code>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

	コマンド	目的
ステップ 10	<b>ip routing</b>	この手順は、Catalyst Switch Module 3110 だけに適用されません。 スイッチ上で IP ルーティングをイネーブルに設定します。
ステップ 11	<b>ipv6 unicast-routing</b>	この手順は、Catalyst Switch Module 3110 だけに適用されません。 IPv6 ユニキャスト データ パケットの転送をイネーブルにします。
ステップ 12	<b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 13	<b>show ipv6 interface interface-id</b>	設定を確認します。
ステップ 14	<b>copy running-config startup-config</b>	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

インターフェイスから IPv6 アドレスを削除するには、**no ipv6 address ipv6-prefix/prefix length eui-64** または **no ipv6 address ipv6-address link-local** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。インターフェイスから手動で設定したすべての IPv6 アドレスを削除するには、**no ipv6 address** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを引数なしで使用します。IPv6 アドレスで明示的に設定されていないインターフェイスで IPv6 処理をディセーブルにするには、**no ipv6 enable** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。Catalyst Switch Module 3110 で IPv6 ルーティングをグローバルにディセーブルにするには、**no ipv6 unicast-routing** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、インターフェイス上で IPv6 ホストをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if)# no switchport
Switch(config-if)# ipv6 enable
Switch(config-if)# exit
```

次に、IPv6 プレフィックス 2001:0DB8:c18:1::/64 に基づく、リンクに対してローカルなアドレスおよびグローバル アドレスを使用して、IPv6 をイネーブルにする例を示します。EUI-64 インターフェイス ID が、両方のアドレスの下位 64 ビットで使用されます。**show ipv6 interface EXEC** コマンドの出力は、インターフェイスのリンクに対してローカルなプレフィックス FE80::/64 にインターフェイス ID (20B:46FF:FE2F:D940) を付加する方法を示しています。

```
Switch(config)# sdm prefer dual-ipv4-and-ipv6 default
Switch(config)# ipv6 unicast-routing
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if)# no switchport
Switch(config-if)# ipv6 address 2001:0DB8:c18:1::/64 eui 64
Switch(config-if)# end
Switch# show ipv6 interface gigabitethernet1/0/1
GigabitEthernet1/0/1 is up, line protocol is up
  IPv6 is enabled, link-local address is FE80::20B:46FF:FE2F:D940
  Global unicast address(es):
    2001:0DB8:c18:1:20B:46FF:FE2F:D940, subnet is 2001:0DB8:c18:1::/64 [EUI]
  Joined group address(es):
    FE02::1
    FE02::2
    FE02::1:FF2F:D940
  MTU is 1500 bytes
  ICMP error messages limited to one every 100 milliseconds
  ICMP redirects are enabled
  ND DAD is enabled, number of DAD attempts: 1
  ND reachable time is 30000 milliseconds
  ND advertised reachable time is 0 milliseconds
  ND advertised retransmit interval is 0 milliseconds
```



```
ND router advertisements are sent every 200 seconds
ND router advertisements live for 1800 seconds
Hosts use stateless autoconfig for addresses.
```

## DRP の設定

Router Advertisement (RA; ルータ アドバタイズメント) メッセージは、**ipv6 nd router-preference** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドによって設定される DRP とともに送信されます。DRP が設定されていない場合は、RA は中小規模のプリファレンスとともに送信されます。

リンク上の 2 つのルータが等価ではあっても、等コストではないルーティングを提供する可能性がある場合、およびポリシーでホストがいずれかのルータを選択するよう指示された場合は、DRP が有効です。

インターフェイス上のルータに DRP を設定するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>interface interface-id</b>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始して、DRP を指定するレイヤ 3 インターフェイスを入力します。
ステップ 3	<b>ipv6 nd router-preference {high   medium   low}</b>	スイッチ インターフェイス上のルータに DRP を指定します。
ステップ 4	<b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<b>show ipv6 interface</b>	設定を確認します。
ステップ 6	<b>copy running-config startup-config</b>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

IPv6 DRP をディセーブルにするには、**no ipv6 nd router-preference** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、インターフェイス上のルータに高い DRP を設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if)# ipv6 nd router-preference high
Switch(config-if)# end
```

IPv6 の DRP の設定の詳細については、Cisco.com の『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』の「Implementing IPv6 Addresses and Basic Connectivity」の章を参照してください。

## IPv4 および IPv6 プロトコル スタックの設定

このセクションは、Catalyst Switch Module 3110 だけに適用されます。

IPv6 ルーティングを設定する前に、IPv4 および IPv6 をサポートする SDM テンプレートを選択する必要があります。まだ設定していない場合、**sdm prefer dual-ipv4-and-ipv6 {default | routing | vlan} [desktop]** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して IPv6 をサポートするテンプレートを設定します。新規テンプレートを選択する場合は、**reload** 特権 EXEC コマンドを使用してスイッチをリロードし、テンプレートを有効にする必要があります。

IPv4 および IPv6 を両方サポートし、IPv6 ルーティングがイネーブルになるようにレイヤ 3 インターフェイスを設定するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>ip routing</b>	スイッチ上でルーティングをイネーブルに設定します。
ステップ 3	<b>ipv6 unicast-routing</b>	スイッチ上で IPv6 データ パケットの転送をイネーブルにします。
ステップ 4	<b>interface interface-id</b>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、設定するレイヤ 3 インターフェイスを指定します。
ステップ 5	<b>no switchport</b>	レイヤ 2 コンフィギュレーション モードからインターフェイスを削除します（物理インターフェイスの場合）。
ステップ 6	<b>ip address ip-address mask [secondary]</b>	インターフェイスのプライマリまたはセカンダリ IPv4 アドレスを指定します。
ステップ 7	<b>ipv6 address ipv6-prefix/prefix length eui-64</b>  または <b>ipv6 address ipv6-address link-local</b>  または <b>ipv6 enable</b>	グローバルな IPv6 アドレスを指定します。ネットワーク プレフィックスだけを指定します。最終の 64 ビットは、スイッチの MAC アドレスから自動的に計算されます。  インターフェイスで IPv6 がイネーブルな場合に自動設定される、リンクローカルなアドレスでなく、インターフェイス上の特定の、リンクローカルなアドレスを使用するように指定します。  インターフェイスに IPv6 リンクに対してローカルなアドレスを自動設定し、インターフェイスでの IPv6 処理をイネーブルにします。リンクに対してローカルなアドレスを使用できるのは、同じリンク上のノードと通信する場合だけです。
ステップ 8	<b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 9	<b>show interface interface-id</b>  <b>show ip interface interface-id</b>  <b>show ipv6 interface interface-id</b>	入力内容を確認します。
ステップ 10	<b>copy running-config startup-config</b>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

IPv4 ルーティングをディセーブルにするには、**no ip routing** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。IPv6 ルーティングをディセーブルにするには、**no ipv6 unicast-routing** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。インターフェイスから IPv4 アドレスを削除するには、**no ip address ip-address mask** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。インターフェイスから IPv6 アドレスを削除するには、**no ipv6 address ipv6-prefix/prefix length eui-64** または **no ipv6 address ipv6-address link-local** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。インターフェイスから手動で設定したすべての IPv6 アドレスを削除するには、**no ipv6 address** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを引数なしで使用します。IPv6 アドレスで明示的に設定されていないインターフェイスで IPv6 処理をディセーブルにするには、**no ipv6 enable** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、インターフェイス上で IPv4 および IPv6 ルーティングをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# sdm prefer dual-ipv4-and-ipv6 default
Switch(config)# ip routing
Switch(config)# ipv6 unicast-routing
Switch(config)# interface fastethernet1/0/11
Switch(config-if)# no switchport
```

```
Switch(config-if)# ip address 192.168.99.1 244.244.244.0
Switch(config-if)# ipv6 address 2001:0DB8:c18:1::/64 eui 64
Switch(config-if)# end
```

## DHCP for IPv6 アドレス割り当ての設定

このセクションは、Catalyst Switch Module 3110 だけに適用されます。

ここでは、IPv6 DHCP (DHCPv6) アドレス割り当ての設定方法について説明します。

- 「DHCPv6 アドレス割り当てのデフォルト設定」 (P.40-19)
- 「DHCPv6 アドレス割り当ての設定時の注意事項」 (P.40-19)
- 「DHCPv6 サーバ機能のイネーブル化」 (P.40-20)
- 「DHCPv6 クライアント機能のイネーブル化」 (P.40-22)

## DHCPv6 アドレス割り当てのデフォルト設定

デフォルトで、DHCPv6 機能はスイッチに設定されています。

## DHCPv6 アドレス割り当ての設定時の注意事項

DHCPv6 アドレス割り当てを設定する場合は、次の注意事項に従ってください。

- 以下の手順では、次に示すレイヤ 3 インターフェイスの 1 つを指定する必要があります。
  - DHCPv6 IPv6 ルーティングは、レイヤ 3 インターフェイス上でイネーブルである必要があります。
  - SVI : **interface vlan *vlan\_id*** コマンドを使用して作成された VLAN インターフェイスです。
  - レイヤ 3 モードの EtherChannel ポート チャンネル : **interface port-channel *port-channel-number*** コマンドを使用して作成されたポートチャンネル論理インターフェイス。
- DHCPv6 を設定する場合は、事前に IPv4 および IPv6 をサポートする SDM テンプレートを選択する必要があります。
- スイッチは、DHCPv6 クライアント、サーバ、またはリレー エージェントとして動作できます。DHCPv6 クライアント、サーバ、およびリレー機能は、インターフェイスで相互に排他的です。
- DHCPv6 クライアント、サーバ、またはリレー エージェントは、マスター スイッチ上でだけ稼働します。スタック マスターの再選出があった場合、新しいマスター スイッチは DHCPv6 設定を維持します。ただし、DHCP サーバ データベース リース情報のローカルの RAM コピーは、維持されません。

Cisco IOS Release 12.2(58)SE 以降のスイッチでは、次の機能がサポートされます。

- DHCPv6 Bulk Lease クエリー  
DHCPv6 バルクリース クエリーでは、クライアントが、DHCPv6 バインディングに関する情報を要求できます。この機能により、新しいクエリー タイプが追加され、TCP を使用した DHCPv6 バインディング データのバルク転送が可能になります。再起動後、リレー サーバが DHCP サーバからバインディング情報を取得するために自動的にバルク リース クエリーを生成するため、DHCPv6 バインディング データのバルク転送は、リレー サーバ スイッチがリポートされ、リレー サーバがすべてのバインディング情報を失った場合に役立ちます。
- DHCPv6 リレー ソース設定

DHCPv6 サーバは、DHCP リレー エージェントの送信元アドレスに対して応答します。通常、DHCPv6 リレー エージェントからのメッセージには、それらの送信元インターフェイスが送信元アドレスとして示されます。ただし、一部のネットワークでは、より安定したアドレス（ループバック インターフェイスなど）をリレー エージェントからのメッセージの送信元アドレスとして設定することが望ましい場合があります。DHCPv6 リレー送信元設定機能には、この機能が用意されています。

これらの機能の詳細および設定方法については、『Cisco IOS IPv6 Configuration Guide, Release 12.4』を参照してください。

## DHCPv6 サーバ機能のイネーブル化

インターフェイスで DHCPv6 サーバをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>ipv6 dhcp pool poolname</code>	DHCP プール コンフィギュレーション モードを開始して、IPv6 DHCP プールの名前を定義します。プール名には象徴的な文字列（Engineering など）または整数（0 など）を使用できます。
ステップ 3	<code>address prefix IPv6-prefix lifetime {tl t1   infinite}</code>	<p>(任意) アドレス割り当て用のアドレス プレフィックスを指定します。</p> <p>このアドレスは、16 ビット値をコロンで区切った 16 進数で指定する必要があります。</p> <p><b>lifetime tl t1</b> : IPv6 アドレス プレフィックスが有効ステータスを維持するタイム インターバル（秒）を指定します。指定できる範囲は 5 ~ 4294967295 秒です。間隔を指定しない場合は、<b>infinite</b> を指定します。</p>
ステップ 4	<code>link-address IPv6-prefix</code>	<p>(任意) リンクアドレスの IPv6 プレフィックスを指定します。</p> <p>着信インターフェイス上のアドレスまたはパケットのリンクアドレスが指定した IPv6 プレフィックスに一致する場合、サーバは設定情報プールを使用します。</p> <p>このアドレスは、16 ビット値をコロンで区切った 16 進数で指定する必要があります。</p>
ステップ 5	<code>vendor-specific vendor-id</code>	(任意) ベンダー固有のコンフィギュレーション モードを開始して、ベンダー固有の ID 番号を入力します。この番号は、ベンダーの IANA プライベート エンタープライズ番号です。指定できる範囲は 1 ~ 4294967295 です。
ステップ 6	<code>suboption number {address IPv6-address   ascii ASCII-string   hex hex-string}</code>	(任意) ベンダー固有のサブオプション番号を入力します。指定できる範囲は 1 ~ 65535 です。IPv6 アドレス、ASCII テキスト、または 16 進文字列をサブオプション パラメータで定義されているように入力します。
ステップ 7	<code>exit</code>	DHCP プール コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 8	<code>exit</code>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 9	<code>interface interface-id</code>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、設定するインターフェイスを指定します。

コマンド	目的
ステップ 10 <b>ipv6 dhcp server</b> [ <i>poolname</i>   <b>automatic</b> ] <b>[rapid-commit]</b> [ <i>preference value</i> ] [ <b>allow-hint</b> ]	インターフェイスで DHCPv6 サーバ機能をイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>poolname</b> : (任意) IPv6 DHCP プールのユーザ定義の名前。プール名には象徴的な文字列 (Engineering など) または整数 (0 など) を使用できます。</li> <li>• <b>automatic</b> : (任意) システムが、クライアントにアドレスを割り当てるときに使用するプールを自動的に決定できるようにします。</li> <li>• <b>rapid-commit</b> : (任意) 2 つのメッセージの交換方法を許可します。</li> <li>• <b>preference value</b> : (任意) サーバによって送信されるアドバタイズメントメッセージ内のプリファレンスオプションで指定されるプリファレンス値。有効な範囲は 0 ~ 255 です。デフォルトのプリファレンス値は 0 です。</li> <li>• <b>allow-hint</b> : (任意) サーバが、SOLICIT メッセージ内のクライアントからの指示を考慮するかどうかを指定します。デフォルトでは、サーバはクライアントのヒントを無視します。</li> </ul>
ステップ 11 <b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 12 <b>show ipv6 dhcp pool</b>  または  <b>show ipv6 dhcp interface</b>	DHCPv6 プール設定を確認します。  DHCPv6 サーバ機能がインターフェイス上でイネーブルであることを確認します。
ステップ 13 <b>copy running-config startup-config</b>	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

DHCPv6 プールを削除するには、**no ipv6 dhcp pool poolname** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。DHCPv6 プールの特性を変更するには、**no** 形式の DHCP プール コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。インターフェイスに対して DHCPv6 サーバ機能をディセーブルにするには、**no ipv6 dhcp server** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次の例では、*engineering* という IPv6 アドレス プレフィックスを持つプールを設定する方法を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# ipv6 dhcp pool engineering
Switch(config-dhcpv6)# address prefix 2001:1000::0/64
Switch(config-dhcpv6)# end
```

次に、3 リンクアドレスおよび IPv6 アドレス プレフィックスを持つ *testgroup* と呼ばれるプールを設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# ipv6 dhcp pool testgroup
Switch(config-dhcpv6)# link-address 2001:1001::0/64
Switch(config-dhcpv6)# link-address 2001:1002::0/64
Switch(config-dhcpv6)# link-address 2001:2000::0/48
Switch(config-dhcpv6)# address prefix 2001:1003::0/64
Switch(config-dhcpv6)# end
```

次の例では、350 というベンダー固有オプションを持つプールを設定する方法を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# ipv6 dhcp pool 350
Switch(config-dhcpv6)# address prefix 2001:1005::0/48
Switch(config-dhcpv6)# vendor-specific 9
Switch(config-dhcpv6-vs)# suboption 1 address 1000:235D::1
Switch(config-dhcpv6-vs)# suboption 2 ascii "IP-Phone"
Switch(config-dhcpv6-vs)# end
```

## DHCPv6 クライアント機能のイネーブル化

インターフェイスで DHCPv6 クライアント機能をイネーブルにするには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>interface interface-id</code>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、設定するインターフェイスを指定します。
ステップ 3	<code>ipv6 address dhcp [rapid-commit]</code>	インターフェイスで、DHCPv6 サーバから IPv6 アドレスを取得するようにします。  <b>rapid-commit</b> : (任意) アドレス割り当てで、2 つのメッセージの交換方法を許可します。
ステップ 4	<code>ipv6 dhcp client request [vendor-specific]</code>	(任意) インターフェイスでベンダー固有のオプションを要求するようにします。
ステップ 5	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 6	<code>show ipv6 dhcp interface</code>	DHCPv6 クライアント機能がインターフェイス上でイネーブルであることを確認します。

DHCPv6 クライアント機能をディセーブルにするには、**no ipv6 address dhcp** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。DHCPv6 クライアント要求を削除するには、**no ipv6 address dhcp client request** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、IPv6 アドレスを取得して、rapid-commit オプションをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet2/0/1
Switch(config-if)# ipv6 address dhcp rapid-commit
```

このマニュアルでは、DHCPv6 のアドレス割り当てについてだけ説明します。DHCPv6 クライアント、サーバ、またはリレー エージェント機能の設定の詳細については、Cisco.com の『Cisco IOS IPv6 Configuration Library』の「Implementing DHCP for IPv6」の章を参照してください。

## IPv6 ICMP レート制限の設定

ICMP レート制限はデフォルトでイネーブルです。エラー メッセージのデフォルト間隔は 100 ミリ秒、デフォルト パケット サイズ (パケットに格納される最大トークン数) は 10 です。

ICMP レート制限パラメータを変更するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>ipv6 icmp error-interval interval [bucket-size]</code>	IPv6 ICMP エラー メッセージの間隔およびバケット サイズを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><code>interval</code> : バケットに追加されるトークンの間隔 (ミリ秒)。指定できる範囲は 0 ~ 2147483647 ミリ秒です。</li> <li><code>bucket-size</code> : (任意) バケットに格納される最大トークン数。指定できる範囲は 1 ~ 200 です。</li> </ul>
ステップ 3	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	<code>show ipv6 interface [interface-id]</code>	設定を確認します。
ステップ 5	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

デフォルト設定に戻すには、`no ipv6 icmp error-interval` グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、IPv6 ICMP エラー メッセージ間隔を 50 ミリ秒に、バケット サイズを 20 トークンに設定する例を示します。

```
Switch(config)# ipv6 icmp error-interval 50 20
```

## IPv6 の CEF および dCEF の設定

このセクションは、Catalyst Switch Module 3110 だけに適用されます。

Cisco Express Forwarding (CEF; シスコ エクスプレス フォワーディング) は、ネットワーク パフォーマンスを最適化するためのレイヤ 3 IP スイッチング テクノロジーです。スイッチ スタックでは、ハードウェアがスタック内で Distributed CEF (dCEF) を使用します。IPv6 CEF および dCEF はデフォルトでディセーブルになっていますが、IPv6 ルーティングを設定すると自動的にイネーブルになります。

IPv6 ユニキャスト パケットをルーティングするには、最初に `ipv6 unicast-routing` グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、IPv6 ユニキャスト パケット フォワーディングをグローバルに設定する必要があります。そして、`ipv6 address` インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、インターフェイスに IPv6 アドレスおよび IPv6 処理を設定する必要があります。

IPv6 CEF または dCEF をディセーブルにするには、`no ipv6 cef` または `no ipv6 cef distributed` グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。IPv6 CEF または dCEF がディセーブルになっている場合に再びイネーブルにするには、`ipv6 cef` または `ipv6 cef distributed` グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。IPv6 ステータスを確認するには、`show ipv6 cef` 特権 EXEC コマンドを入力します。

CEF または dCEF の設定の詳細については、Cisco.com の『Cisco IOS IPv6 Configuration Library』の「Implementing IPv6 Addresses and Basic Connectivity」の章を参照してください。

## IPv6 のスタティック ルートの設定

スタティック IPv6 ルートを設定する前に、`ip routing` グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してルーティングをイネーブルにし、`ipv6 unicast-routing` グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して IPv6 パケットの転送をイネーブルにし、インターフェイスに IPv6 アドレスを設定して少なくとも 1 つのレイヤ 3 インターフェイス上で IPv6 をイネーブルにする必要があります。

IPv6 スタティック ルートを設定するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>ipv6 route ipv6-prefix/prefix length {ipv6-address   interface-id [ipv6-address]} [administrative distance]</code>	<p>スタティック IPv6 ルートを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>ipv6-prefix</i> : スタティック ルートの宛先となる IPv6 ネットワーク。スタティック ホスト ルートを設定する場合は、ホスト名も設定できます。</li> <li>• <i>/prefix length</i> : IPv6 プレフィックスの長さ。プレフィックス (アドレスのネットワーク部分) を構成するアドレスの上位連続ビット数を示す 10 進値です。スラッシュ記号を 10 進値の前に付ける必要があります。</li> <li>• <i>ipv6-address</i> : 指定したネットワークに到達するために使用可能なネクスト ホップの IPv6 アドレス。ネクスト ホップの IPv6 アドレスを直接接続する必要はありません。再帰処理が実行されて、直接接続されたネクスト ホップの IPv6 アドレスが検出されます。このアドレスは、16 ビット値をコロンで区切った 16 進数で指定する必要があります。</li> <li>• <i>interface-id</i> : Point-To-Point (ポイントツーポイント) インターフェイスおよびブロードキャスト インターフェイスからのダイレクト スタティック ルートを指定します。ポイントツーポイント インターフェイスの場合、ネクスト ホップの IPv6 アドレスを指定する必要はありません。ブロードキャスト インターフェイスの場合は、常にネクスト ホップの IPv6 アドレスを指定するか、または指定したプレフィックスをリンクに割り当てて、リンクに対してローカルなアドレスをネクスト ホップとして指定する必要があります。パケットの送信先となるネクスト ホップの IPv6 アドレスを指定することもできます。</li> </ul> <p>(注) リンクに対してローカルなアドレスをネクスト ホップとして使用する場合は、<i>interface-id</i> を指定する必要があります (リンクに対してローカルなネクスト ホップを隣接ルータに設定する必要もあります)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>administrative distance</i> : (任意) アドミニストレーティブ ディスタンス。指定できる範囲は 1 ~ 254 です。デフォルト値は 1 で、この場合、接続されたルートを除くその他のどのルート タイプよりも、スタティック ルートが優先します。フローティング スタティック ルートを設定する場合は、ダイナミック ルーティング プロトコルよりも大きなアドミニストレーティブ ディスタンスを使用します。</li> </ul>
ステップ 3	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。



	コマンド	目的
ステップ 4	<pre>show ipv6 static [ipv6-address   ipv6-prefix/prefix length] [interface interface-id] [recursive] [detail]</pre> <p>または</p> <pre>show ipv6 route static [updated]</pre>	<p>IPv6 ルーティング テーブルの内容を表示して、設定を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>interface interface-id</b> : (任意) 出力インターフェイスとして指定されたインターフェイスを含むスタティック ルートのみを表示します。</li> <li>• <b>recursive</b> : (任意) 再帰スタティック ルートのみを表示します。<b>recursive</b> キーワードは <b>interface</b> キーワードと相互に排他的です。ただし、コマンド構文に IPv6 プレフィックスが指定されているかどうかに関係なく、使用することができます。</li> <li>• <b>detail</b> : (任意) 次に示す追加情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>– 有効な再帰ルートの場合、出力パス セットおよび最大分解深度。</li> <li>– 無効なルートの場合、ルートが無効な理由。</li> </ul> </li> </ul>
ステップ 5	<pre>copy running-config startup-config</pre>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

設定されたスタティック ルートを削除するには、**no ipv6 route ipv6-prefix/prefix length {ipv6-address | interface-id [ipv6-address]} [administrative distance]** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、アドミニストレーティブ ディスタンスが 130 のフローティング スタティック ルートをインターフェイスに設定する例を示します。

```
Switch(config)# ipv6 route 2001:0DB8::/32 gigabitethernet2/0/1 130
```

スタティック IPv6 ルーティングの設定の詳細については、Cisco.com の『Cisco IOS IPv6 Configuration Library』の「Implementing Static Routes for IPv6」の章を参照してください。

## IPv6 RIP の設定

このセクションは、Catalyst Switch Module 3110 だけに適用されます。

IPv6 RIP を実行するようにスイッチを設定する前に、**ip routing** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してルーティングをイネーブルにし、**ipv6 unicast-routing** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して IPv6 パケットの転送をイネーブルにして、IPv6 RIP をイネーブルにするレイヤ 3 インターフェイス上で IPv6 をイネーブルにする必要があります。

IPv6 RIP を設定するには、特権 EXEC モードで次の必須手順または任意の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<pre>configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<pre>ipv6 router rip name</pre>	IPv6 RIP ルーティング プロセスを設定し、このプロセスに対してルータ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<pre>maximum-paths number-paths</pre>	(任意) IPv6 RIP がサポートできる等コスト ルートの最大数を定義します。指定できる範囲は 1 ~ 64 で、デフォルトは 4 ルートです。
ステップ 4	<pre>exit</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 5	<pre>interface interface-id</pre>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、設定するレイヤ 3 インターフェイスを指定します。

	コマンド	目的
ステップ 6	<code>ipv6 rip name enable</code>	指定された IPv6 RIP ルーティング プロセスをインターフェイス上でイネーブルにします。
ステップ 7	<code>ipv6 rip name default-information {only   originate}</code>	(任意) IPv6 デフォルト ルート (::/0) を、指定されたインターフェイスから送信される RIP ルーティング プロセス アップデートで発信します。  (注) 任意のインターフェイスから IPv6 デフォルト ルート (::/0) を送信したあとに、ルーティング ループが発生しないようにするために、ルーティング プロセスは任意のインターフェイスで受信したすべてのデフォルト ルートを無視します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>only</b> : デフォルト ルートを送信し、現在のインターフェイスで送信されたアップデート内のその他のすべてのルートを抑制するように選択します。</li> <li>• <b>originate</b> : デフォルト ルート、および現在のインターフェイスで送信されたアップデート内のその他のすべてのルートを送信するように選択します。</li> </ul>
ステップ 8	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 9	<code>show ipv6 rip [name] [interface interface-id] [database] [next-hops]</code>  または <code>show ipv6 route rip [updated]</code>	IPv6 RIP プロセスに関する情報を表示します。  IPv6 ルーティング テーブルの現在の内容を表示します。
ステップ 10	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

RIP ルーティング プロセスをディセーブルにするには、**no ipv6 router rip name** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。特定のインターフェイスに対して RIP ルーティング プロセスをディセーブルにするには、**no ipv6 rip name** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、最大 8 の等コスト ルートにより RIP ルーティング プロセス `cisco` をイネーブルにし、インターフェイス上でこれをイネーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# ipv6 router rip cisco
Switch(config-router)# maximum-paths 8
Switch(config)# exit
Switch(config)# interface gigabitethernet2/0/1
Switch(config-if)# ipv6 rip cisco enable
```

IPv6 の RIP ルーティングの設定の詳細については、Cisco.com の『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』の「Implementing RIP for IPv6」の章を参照してください。

## IPv6 OSPF の設定

このセクションは、Catalyst Switch Module 3110 だけに適用されます。

ネットワークでは、IPv6 の OSPF をカスタマイズできます。ただし、IPv6 の OSPF のデフォルト設定は、ほとんどのカスタマーおよび機能の要件を満たします。

次の注意事項に従ってください。

- IPv6 コマンドのデフォルト設定を変更する場合は注意してください。デフォルト設定を変更すると、IPv6 ネットワークの OSPF に悪影響が及ぶことがあります。
- インターフェイスで IPv6 OSPF をイネーブルにする前に、**ip routing** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してルーティングをイネーブルにし、**ipv6 unicast-routing** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して IPv6 パケットの転送をイネーブルにし、IPv6 OSPF をイネーブルにするレイヤ 3 インターフェイスで **IPv6** をイネーブルにする必要があります。

IPv6 OSPF を設定するには、特権 EXEC モードで次の必須手順または任意の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>ipv6 router ospf process-id</b>	プロセスに対して OSPF ルータ コンフィギュレーション モードをイネーブルにします。プロセス ID は、IPv6 OSPF ルーティング プロセスをイネーブルにする場合に管理上割り当てられる番号です。この ID はローカルに割り当てられ、1 ~ 65535 の正の整数を指定できます。
ステップ 3	<b>area area-id range {ipv6-prefix/prefix length} [advertise   not-advertise] [cost cost]</b>	(任意) エリア境界でルートを統合し、サマライズします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>area-id</b> : ルートをサマライズするエリアの ID。10 進数または IPv6 プレフィックスのどちらかを指定できます。</li> <li>• <b>ipv6-prefix/prefix length</b> : 宛先 IPv6 ネットワーク、およびプレフィックス (アドレスのネットワーク部分) を構成するアドレスの上位連続ビット数を示す 10 進数。10 進値の前にスラッシュ (/) を付加する必要があります。</li> <li>• <b>advertise</b> : (任意) Type 3 サマリー リンクステート アドバタイズメント (LSA) をアドバタイズおよび生成するように、アドレス範囲ステータスを設定します。</li> <li>• <b>not-advertise</b> : (任意) アドレス範囲ステータスを DoNotAdvertise に設定します。Type3 サマリー LSA は抑制され、コンポーネント ネットワークは他のネットワークから隠された状態のままです。</li> <li>• <b>cost cost</b> : (任意) 現在のサマリー ルートのメトリックまたはコスト。宛先への最短パスを判別する場合に、OSPF SPF 計算で使用します。指定できる値は 0 ~ 16777215 です。</li> </ul>
ステップ 4	<b>maximum paths number-paths</b>	(任意) IPv6 OSPF がルーティング テーブルに入力する必要がある、同じ宛先への等コストルートの最大数を定義します。指定できる範囲は 1 ~ 64 で、デフォルトは 16 です。
ステップ 5	<b>exit</b>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 6	<b>interface interface-id</b>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、設定するレイヤ 3 インターフェイスを指定します。
ステップ 7	<b>ipv6 ospf process-id area area-id [instance instance-id]</b>	インターフェイス上で IPv6 OSPF をイネーブルにします。 <b>instance instance-id</b> : (任意) インスタンス ID
ステップ 8	<b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。

	コマンド	目的
ステップ9	<b>show ipv6 ospf</b> [ <i>process-id</i> ] [ <i>area-id</i> ] <b>interface</b> [ <i>interface-id</i> ]  または <b>show ipv6 ospf</b> [ <i>process-id</i> ] [ <i>area-id</i> ]	OSPF インターフェイスの情報を表示します。  OSPF ルーティング プロセスに関する一般的な情報を表示します。
ステップ10	<b>copy running-config startup-config</b>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

OSPF ルーティング プロセスをディセーブルするには、**no ipv6 router ospf process-id** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。特定のインターフェイスに対して OSPF ルーティング プロセスをディセーブルにするには、**no ipv6 ospf process-id area area-id** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

IPv6 の OSPF ルーティングの設定の詳細については、Cisco.com の『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』の「Implementing OSPF for IPv6」の章を参照してください。

## IPv6 の EIGRP の設定

このセクションは、Catalyst Switch Module 3110 だけに適用されます。

EIGRP IPv6 をイネーブルにするには、インターフェイスで **ipv6 router eigrp as-number** コマンドおよび **ipv6 eigrp as-number** コマンドを設定します。

明示的なルータ ID を設定するには、**show ipv6 eigrp** コマンドを使用して設定済みのルータ ID を確認してから、**eigrp router-id ip-address** コマンドを使用します。

EIGRP IPv4 の場合と同様に、EIGRPv6 を使用して EIGRP IPv4 インターフェイスを指定し、これらのサブセットを受動インターフェイスとして選択できます。**passive-interface default** コマンドを使用して、すべてのインターフェイスをパッシブに設定してから、選択されたインターフェイスで **no passive-interface** コマンドを使用し、これらのインターフェイスをアクティブにします。受動インターフェイスでは、EIGRP IPv6 を設定する必要がありません。

設定手順の詳細については、『*Cisco IOS IPv6 Configuration Guide*』の「Implementing EIGRP for IPv6」の章を参照してください。

## IPv6 の HSRP の設定

このセクションは、Catalyst Switch Module 3110 だけに適用されます。

IPv6 のホットスタンバイ ルータ プロトコル (HSRP) は、任意の単一のルータの可用性に依存せず、ルーティング IPv6 トラフィックにルーティング冗長性を提供します。

スイッチで IPv6 の HSRP がイネーブルである場合、IPv6 ホストは IPv6 ネイバー探索ルータのアドバタイズメント メッセージから使用可能な IPv6 ルータを学習します。HSRP IPv6 グループには、HSRP グループ番号に基づいて作成される仮想 MAC アドレスがあります。グループには、デフォルトで、HSRP 仮想 MAC アドレスに基づいて作成される仮想 IPv6 リンクローカル アドレスがあります。HSRP グループがアクティブな場合、定期的なメッセージが HSRP 仮想 IPv6 リンクローカル アドレスに送信されます。

IPv6 の HSRP を設定する場合、インターフェイス上で HSRP version 2 (HSRPv2) をイネーブルにする必要があります。IPv6 の HSRP および HSRPv2 の詳細については、[第 41 章「HSRP および VRRP の設定」](#)を参照してください。



(注) IPv6 の HSRP グループを設定する前に、**ipv6 unicast-routing** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して IPv6 パケットの転送をイネーブルにし、IPv6 の HSRP グループを設定するインターフェイス上で IPv6 をイネーブルにする必要があります。

## HSRP バージョン 2 のイネーブル化

レイヤ 3 インターフェイス上で HSRPv2 をイネーブルにする場合は、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>interface interface-id</code>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始して、スタンバイ バージョンを指定するレイヤ 3 インターフェイスを入力します。
ステップ 3	<code>standby version {1   2}</code>	HSRP バージョンを変更するには、 <b>2</b> を入力します。デフォルトは 1 です。
ステップ 4	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<code>show standby</code>	設定を確認します。
ステップ 6	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

## IPv6 の HSRP グループのイネーブル化

レイヤ 3 インターフェイス上で IPv6 の HSRP を作成する場合、またはイネーブルにする場合は、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>interface interface-id</code>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、IPv6 の HSRP をイネーブルにするレイヤ 3 インターフェイスを入力します。
ステップ 3	<code>standby [group-number] ipv6 {link-local-address   autoconfig}</code>	IPv6 の HSRP グループを作成、(またはイネーブルに) する <ul style="list-style-type: none"> <li>(任意) <i>group-number</i> : HSRP をイネーブルにするインターフェイスのグループ番号を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 4095 です。デフォルトは 0 です。HSRP グループが 1 つしかない場合は、グループ番号を入力する必要はありません。</li> <li>ホット スタンバイ ルータ インターフェイスのリンクローカルアドレスを入力するか、リンクローカルプレフィックスおよび変更された EUI-64 形式のインターフェイス ID から自動的に生成されるリンクローカルアドレスをイネーブルにします。この場合、EUI-64 インターフェイス ID は、関連する HSRP 仮想 MAC アドレスから作成されます。</li> </ul>

	コマンド	目的
ステップ 4	<code>standby [group-number] preempt [delay {minimum seconds   reload seconds   sync seconds}]</code>	<p>ルータを <b>preempt</b> に設定し、ローカル ルータのプライオリティがアクティブ ルータよりも高い場合は、アクティブ ルータとして制御を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（任意） <b>group-number</b> : コマンドが適用されるグループ番号です。</li> <li>（任意） <b>delay</b> : ローカル ルータがアクティブ ルータの役割を引き継ぐまでの時間を、指定された秒数だけ延期します。指定できる範囲は 0 ~ 3600 秒です (1 時間)。デフォルトは 0 です (引き継ぐまで遅延がない)。</li> <li>（任意） <b>reload</b> : リロード後のプリエンプション遅延 (秒) を設定します。遅延時間は、ルータのリロード後の最初のインターフェイスアップ イベントに対してだけ適用されます。</li> <li>（任意） <b>sync</b> : IP 冗長クライアントの最大同期化時間 (秒) を設定します。</li> </ul> <p>デフォルト値に戻すには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。</p>
ステップ 5	<code>standby [group-number] priority priority</code>	<p>アクティブ ルータを選択するときを使用される <b>priority</b> 値を設定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。デフォルトプライオリティは 100 です。最大の値が、最高のプライオリティを表します。</p> <p>デフォルト値に戻すには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。</p>
ステップ 6	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	<code>show standby [interface-id [group-number]]</code>	設定を確認します。
ステップ 8	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

IPv6 の HSRP をディセーブルにするには、`no standby [group-number] ipv6` インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、ポートのグループ 1 で IPv6 の HSRP をアクティブにする例を示します。ホットスタンバイグループで使用される IP アドレスは、IPv6 の HSRP を使用して学習されます。



(注)

これは、IPv6 の HSRP をイネーブルにするために必要な最小限の手順です。その他の設定は任意です。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if)# no switchport
Switch(config-if)# standby 1 ipv6 autoconfig
Switch(config-if)# end
Switch# show standby
```

HSRP for IPv6 の詳細については、Cisco.com の『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』の「Configuring First Hop Redundancy Protocols in IPv6」の章を参照してください。

## IPv6 の表示

次のコマンドの構文および使用方法の詳細については、Cisco IOS のコマンドリファレンスを参照してください。

表 40-3 に、スイッチ上で IPv6 をモニタするための特権 EXEC コマンドを示します。

表 40-3 IPv6 のモニタリング用コマンド

コマンド	目的
<code>show ipv6 access-list</code>	アクセスリストのサマリーを表示します。
<code>show ipv6 cef<sup>1</sup></code>	IPv6 CEF を表示します。
<code>show ipv6 interface interface-id</code>	IPv6 インターフェイスのステータスおよび設定を表示します。
<code>show ipv6 mtu</code>	宛先キャッシュごとに IPv6 MTU を表示します。
<code>show ipv6 neighbors</code>	IPv6 ネイバー キャッシュ エントリを表示します。
<code>show ipv6 ospf<sup>1</sup></code>	IPv6 OSPF 情報を表示します。
<code>show ipv6 prefix-list</code>	IPv6 プレフィックス リストを表示します。
<code>show ipv6 protocols<sup>1</sup></code>	スイッチ上の IPv6 ルーティング プロトコルを表示します。
<code>show ipv6 rip<sup>1</sup></code>	IPv6 RIP ルーティング プロトコル ステータスを表示します。
<code>show ipv6 route<sup>1</sup></code>	IPv6 ルート テーブル エントリを表示します。
<code>show ipv6 routers<sup>1</sup></code>	ローカル IPv6 ルータを表示します。
<code>show ipv6 static</code>	IPv6 スタティック ルートを表示します。
<code>show ipv6 traffic</code>	IPv6 トラフィックの統計情報を表示します。

1. このコマンドは、Catalyst Switch Module 3012 ではサポートされていません。

表 40-4 に、Catalyst Switch Module 3110 上で EIGRP IPv6 情報を表示するための特権 EXEC コマンドを示します。

表 40-4 EIGRP IPv6 情報を表示するためのコマンド

コマンド	目的
<code>show ipv6 eigrp [as-number] interface</code>	EIGRP IPv6 用に設定されたインターフェイスの情報を表示します。
<code>show ipv6 eigrp [as-number] neighbor</code>	EIGRP IPv6 で検出されたネイバーを表示します。
<code>show ipv6 eigrp [as-number] traffic</code>	送受信される EIGRP IPv6 パケット数を表示します。
<code>show ipv6 eigrp topology [as-number   ipv6-address] [active   all-links   detail-links   pending   summary   zero-successors]</code>	IPv6 トポロジテーブルの EIGRP エントリを表示します。

表 40-5 に、スイッチ上の IPv4 および IPv6 アドレス タイプを表示するための特権 EXEC コマンドを示します。

表 40-5 IPv4 および IPv6 のアドレス タイプの表示用コマンド

コマンド	目的
<code>show ip http server history</code>	アクセスした IP アドレス、接続が終了したときの時間を含む、最近 20 回の HTTP サーバへの接続を表示します。
<code>show ip http server connection</code>	アクセスしているローカルおよびリモート IP アドレスを含む、HTTP サーバへの現在の接続を表示します。
<code>show ip http client connection</code>	HTTP サーバへの HTTP クライアント接続の設定値を表示します。
<code>show ip http client history</code>	サーバに対して HTTP クライアントが行った最後の 20 回の要求のリストを表示します。

次に、`show ipv6 interface` 特権 EXEC コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show ipv6 interface
Vlan1 is up, line protocol is up
  IPv6 is enabled, link-local address is FE80::20B:46FF:FE2F:D940
  Global unicast address(es):
    3FFE:C000:0:1:20B:46FF:FE2F:D940, subnet is 3FFE:C000:0:1::/64 [EUI]
  Joined group address(es):
    FF02::1
    FF02::2
    FF02::1:FF2F:D940
  MTU is 1500 bytes
  ICMP error messages limited to one every 100 milliseconds
  ICMP redirects are enabled
  ND DAD is enabled, number of DAD attempts: 1
  ND reachable time is 30000 milliseconds
  ND advertised reachable time is 0 milliseconds
  ND advertised retransmit interval is 0 milliseconds
  ND router advertisements are sent every 200 seconds
  ND router advertisements live for 1800 seconds
<output truncated>
```



次に、Catalyst Switch Module 3110 上での **show ipv6 cef** 特権 EXEC コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show ipv6 cef
::/0
  nexthop 3FFE:C000:0:7::777 Vlan7
3FFE:C000:0:1::/64
  attached to Vlan1
3FFE:C000:0:1:20B:46FF:FE2F:D940/128
  receive
3FFE:C000:0:7::/64
  attached to Vlan7
3FFE:C000:0:7::777/128
  attached to Vlan7
3FFE:C000:0:7:20B:46FF:FE2F:D97F/128
  receive
3FFE:C000:111:1::/64
  attached to GigabitEthernet1/0/11
3FFE:C000:111:1:20B:46FF:FE2F:D945/128
  receive
3FFE:C000:168:1::/64
  attached to GigabitEthernet2/0/13
3FFE:C000:168:1:20B:46FF:FE2F:D94B/128
  receive
3FFE:C000:16A:1::/64
  attached to Loopback10
3FFE:C000:16A:1:20B:46FF:FE2F:D900/128
  receive

<output truncated>
```

次に、**show ipv6 protocols** 特権 EXEC コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show ipv6 protocols
IPv6 Routing Protocol is "connected"
IPv6 Routing Protocol is "static"
IPv6 Routing Protocol is "rip fer"
  Interfaces:
    Vlan6
  GigabitEthernet2/0/4
  GigabitEthernet2/0/11
  GigabitEthernet1/0/12
  Redistribution:
    None
```

次に、Catalyst Switch Module 3110 上での **show ipv6 rip** 特権 EXEC コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show ipv6 rip
RIP process "fer", port 521, multicast-group FF02::9, pid 190
  Administrative distance is 120. Maximum paths is 16
  Updates every 30 seconds, expire after 180
  Holddown lasts 0 seconds, garbage collect after 120
  Split horizon is on; poison reverse is off
  Default routes are not generated
  Periodic updates 9040, trigger updates 60
  Interfaces:
    Vlan6
  GigabitEthernet2/0/4
  GigabitEthernet2/0/11
  GigabitEthernet1/0/12
  Redistribution:
    None
```

次に、**show ipv6 neighbor** 特権 EXEC コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show ipv6 neighbors
```

```
IPv6 Address                               Age Link-layer Addr State Interface
3FFE:C000:0:7::777                         - 0007.0007.0007 REACH V17
3FFE:C101:113:1::33                        - 0000.0000.0033 REACH Fa1/0/13
```

次に、**show ipv6 static** 特権 EXEC コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show ipv6 static
IPv6 Static routes
Code: * - installed in RIB
* ::/0 via nexthop 3FFE:C000:0:7::777, distance 1
```

次に、Catalyst Switch Module 3110 上での **show ipv6 route** 特権 EXEC コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show ipv6 route
IPv6 Routing Table - 21 entries
Codes: C - Connected, L - Local, S - Static, R - RIP, B - BGP
       U - Per-user Static route
       I1 - ISIS L1, I2 - ISIS L2, IA - ISIS interarea, IS - ISIS summary
       O - OSPF intra, OI - OSPF inter, OE1 - OSPF ext 1, OE2 - OSPF ext 2
       ON1 - OSPF NSSA ext 1, ON2 - OSPF NSSA ext 2
S    ::/0 [1/0]
     via 3FFE:C000:0:7::777
C    3FFE:C000:0:1::/64 [0/0]
     via ::, Vlan1
L    3FFE:C000:0:1:20B:46FF:FE2F:D940/128 [0/0]
     via ::, Vlan1
C    3FFE:C000:0:7::/64 [0/0]
     via ::, Vlan7
L    3FFE:C000:0:7:20B:46FF:FE2F:D97F/128 [0/0]
     via ::, Vlan7
C    3FFE:C000:111:1::/64 [0/0]
     via ::, GigabitEthernet1/0/11
L    3FFE:C000:111:1:20B:46FF:FE2F:D945/128 [0/0]
C    3FFE:C000:168:1::/64 [0/0]
     via ::, GigabitEthernet2/0/4
L    3FFE:C000:168:1:20B:46FF:FE2F:D94B/128 [0/0]
     via ::, GigabitEthernet2/0/4
C    3FFE:C000:16A:1::/64 [0/0]
     via ::, Loopback10
L    3FFE:C000:16A:1:20B:46FF:FE2F:D900/128 [0/0]
     via ::, Loopback10

<output truncated>
```

次に、**show ipv6 traffic** 特権 EXEC コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show ipv6 traffic
IPv6 statistics:
  Rcvd: 1 total, 1 local destination
        0 source-routed, 0 truncated
        0 format errors, 0 hop count exceeded
        0 bad header, 0 unknown option, 0 bad source
        0 unknown protocol, 0 not a router
        0 fragments, 0 total reassembled
        0 reassembly timeouts, 0 reassembly failures
  Sent: 36861 generated, 0 forwarded
        0 fragmented into 0 fragments, 0 failed
        0 encapsulation failed, 0 no route, 0 too big
        0 RPF drops, 0 RPF suppressed drops
  Mcast: 1 received, 36861 sent

ICMP statistics:
  Rcvd: 1 input, 0 checksum errors, 0 too short
        0 unknown info type, 0 unknown error type
  unreachable: 0 routing, 0 admin, 0 neighbor, 0 address, 0 port
  parameter: 0 error, 0 header, 0 option
        0 hopcount expired, 0 reassembly timeout, 0 too big
        0 echo request, 0 echo reply
        0 group query, 0 group report, 0 group reduce
        1 router solicit, 0 router advert, 0 redirects
        0 neighbor solicit, 0 neighbor advert
  Sent: 10112 output, 0 rate-limited
  unreachable: 0 routing, 0 admin, 0 neighbor, 0 address, 0 port
  parameter: 0 error, 0 header, 0 option
        0 hopcount expired, 0 reassembly timeout, 0 too big
        0 echo request, 0 echo reply
        0 group query, 0 group report, 0 group reduce
        0 router solicit, 9944 router advert, 0 redirects
        84 neighbor solicit, 84 neighbor advert

UDP statistics:
  Rcvd: 0 input, 0 checksum errors, 0 length errors
        0 no port, 0 dropped
  Sent: 26749 output

TCP statistics:
  Rcvd: 0 input, 0 checksum errors
  Sent: 0 output, 0 retransmitted
```

